

花見川周辺資源の活用方策検討支援業務委託報告書〈概要版〉

1 業務目的

緑と水辺のまちづくりプラン 2023 に掲げる川辺の方向性「親しみのある川辺をはぐくむ」を目指すにあたり、過年度の実績をふまえたさらなる検証によって花島公園お花見広場等の利用者のニーズを把握することを目的とする。

対象地：花島公園お花見広場



2 実施概要

項目	実施概要
A	市民参加型ワークショップ 花島公園お花見広場を対象とし、市民参加型ワークショップを実施し、ニーズの把握及び「D 社会実験イベント」の内容を検討。
B	地域活動団体のヒアリング 地域活動団体へのヒアリングを行い、花見川活用方策を検討。
C	水上アクティビティ体験 水上アクティビティの可能性としてカヤック×○○の可能性を試行し、官民連携事業の実施に向けてシーズンごとの変化する利用者動態の変化とニーズの分析を実施。
D	社会実験イベント開催 花島公園お花見広場にて、「A 市民参加型ワークショップ」で出た意見を反映させた企画を実施。
E	森の広場を活用した社会実験 森の広場にて、「A 市民参加型ワークショップ」で出た意見を反映させた企画を実施。

3 実施結果

A. 市民参加型ワークショップ

意見を基にしたニーズの整理

①駐車場の整備

現在、お花見広場へのアクセスする方法はコミュニティセンターからの徒歩か、サイクリングコースからの自転車がメインとなる。花島公園駐車場からの動線は高低差があるほか、最短ルートは公園外の交通量が多く狭い道路を含むルートであるため、駐車場整備を望む声が多かった。

②自然豊かな環境を遊びつくすレジャーのアクティビティ

場のポテンシャルとして、竹が豊富であることや、川の流れがほぼ無いこと、風景への評価が高かったことから、自然を活用しレジャー機能を持ったアクティビティへのニーズが高かった。

③飲食機能

現状、周囲に飲食機能が全くないことから、BBQ やカフェができないかという声があった。

その他、花火や音楽ライブ、竹の活用、艇庫整備、親水護岸整備、キャンプ等の意見があり、これらを社会実験イベントの内容に反映させた。

B. 地域活動団体のヒアリング

ヒアリング結果の整理

- ・自然豊かな環境が残されている。
- ・現状では行く目的が無いので、目的地化されるような施設整備が必要。
- ・水辺にいるという視認性と空気感を出すことが重要。
- ・花見川サイクリングコースは初心者にも走りやすい。
- ・自転車を見ながら休憩できる場所や、自転車と一緒に写真が撮れるスポットがあるとよい。

C. 水上アクティビティ体験

D. 社会実験イベント

E. 森の広場の活用実験

にニーズ調査を効果的に実施するため、同日にイベント等を行った。

開催日時	開催項目	イベント名	概要
7月29日(土) 9:00~17:00 7月30日(日) 9:00~16:00	水上アクティビティ	花見川カヤック×アドベンチャー	「カヤック×アドベンチャー」をテーマに動物ぬいぐるみ探し、花見川団地商店街のスイカ配布、迷彩帽子と双眼鏡の貸出を行った。
10月22日(土) 9:00~16:00	水上アクティビティ 社会実験イベント	花見川カヤック×アウトドア体験	「カヤック×アウトドア体験」をテーマに竹灯籠づくりワークショップ、焚火マッシュマロ、パターゴルフ、スターテント設置、ハンモック設置を行った。
11月12日(日) 10:00~19:00	水上アクティビティ 社会実験イベント 森の広場の活用	花見川リバーサイドフェス	「カヤック×フェス」をテーマに音楽イベントと同時に開催し、シールアンケートで河川のニーズ調査を行った。
12月9日(土) 9:00~16:00	水上アクティビティ	花見川カヤック×アウトドア	「カヤック×アウトドア体験」をテーマに焚火マッシュマロ、キャンプチェア等の滞留区間の設置を行った。

イベント実施時のアンケート集計結果

①年代

- ・過半が20~39歳であり、幼稚園~小学生の子ども連れ家族の利用者が多かった。

②居住地

- ・花見川団地から来た来場者が極端に少なかった。団地自治会報や商店街掲示ではタッチポイントにならなかったか、もしくは団地住民のニーズに合わなかったか、といった要因が考えられる。
- ・市外からの来場も比較的多く、花島公園が八千代市と隣接しているのでその効果かと考えられる。

③何で知ったか

- ・ちいき新聞への掲載広告や市HPでの発信により知った人が多い。近隣小学校にチラシを配布したことから、子連れの家族の来場が目立った。

④お花見広場への飲食物に対するニーズ

- ・300円ぐらいのカフェ系が最も人気があった。次に300円ぐらいの軽食系。ともに300円であることから、品質よりも安さを優先する傾向を感じる。特に子供が小さい世帯の20~39歳は79%が300円のサービスを希望している。

⑤お花見広場整備に対するニーズ

- ・本格的なアスレチック、カフェ、時間貸しキャンプ場、子どもカフェ、バーベキュー施設の意見が多く、20~39歳と40~59歳でほぼ同じ傾向となった。
- ・アスレチックで子供を遊ばせつつ、大人も楽しめるカフェ施設があり、お昼になれば子どもが安くご飯を食べられることもカフェで昼食をとる。複数人で来た場合バーベキュー施設、キャンプ場を利用する、といったアクティビティが想像できる。

⑥護岸整備に対するニーズ

・ウッドデッキ、水遊び、水辺の生き物と触れ合える護岸整備の意見が多かった。来場者層の違いからか、カヤックの乗り入れがしやすい護岸についての意見は少なかった。

⑦森の広場に対するニーズ

・アスレチックの得票が多く、お花見広場のニーズでも本格的なアスレチック施設は得票数が多かったことから、子どもが森や公園でおもいっきり遊べる施設を望む声が多いことがうかがえる。

4. 結果整理

業務を通じた花島公園のニーズ及びポテンシャル

①お花見広場のニーズ

・駐車場整備

花島公園を散歩する利用者や土日に家族で公園に遊びに来る人々は車での移動が一般的で、駐車場整備を望む声が多かった。特に釣りを趣味とする人は花見川周辺に駐車場がないためニーズが高かった。

・お花見広場

本格的なアスレチック、カフェ、時間貸しキャンプ場、子どもカフェ、バーベキュー施設といったニーズが挙がった。これは市民参加型ワークショップでも同意見が挙がった。しかし、現在の公園利用状況と立地状況を合わせ、実現可能性が高いものを選択する必要がある。

②イベント利用のニーズ

・イベント出店者へのヒアリング調査では、イベントの雰囲気がとてもよかったとの意見が多かった。要因として音楽を中心としたイベントになっていたこと、BGM が常に会場に流れていたことから明るい空間になっていたことからと思われる。また、河川や樹木といった周辺環境がマッチしていたことも考えられる。

・市民参加型ワークショップにて河川が見えるように竹を伐採してほしいというニーズが挙がった。花見川リバーサイドフェスでは伐採した竹を竹灯籠づくりワークショップとして資源の活用ができないかという検証を行った結果、問題なく竹を灯籠に転用できた。また焚火とマシュマロは非常に人気だった。公園内で伐採した竹木の活用が検討できる。

③水上アクティビティのニーズ

・カヤックのゾーニング

カヤック利用者を、マイカヤックを持っている人と、レンタルカヤックで楽しむ人の二つの属性に分けて、それぞれが利用者しやすい場所に護岸整備を行う必要があると考えられる。マイカヤックを持っている人は、入口付近の駐車場にアクセスのよい位置が理想であり、レンタルカヤックを楽しむ人は、背後の施設と一体で利用できる位置が理想である。

・カヤック以外の水上アクティビティ体験

ウッドデッキ、水遊び、水辺の生き物の利用ニーズが多かった。市民参加型ワークショップでは映画を水辺で見る、花火をするといった意見も出ていた。護岸を憩いの場としたり教育の場としたり水遊びができたりイベントをしたり、といった体験を行うことで複数のコミュニティ形成を狙うことができる。

④森の広場のニーズ

プレーパーク、本格的なアスレチック、バーベキュー施設、ツリーハウス等の利用ニーズが多かった。また、花見川団地に近接しているが、高低差があることや団地内に公園が十分にあること等から、花見川団地からの利用者動線としての活用は難しいほか、アクセスに問題があり、継続的な運営が難しいと思われるので、かわまちづくりの観点でまずはお花見広場に集中することが望ましい。